

新病院に関するご意見・ご質問（R6.8.4 高度医療・人材育成拠点に関する県民公開セミナー）への主な回答

No.	質問	回答
1	中電病院で医療従事者として勤務しております。所属は地域包括ですが、そのまま新病院でも地域包括として続けて面接なしで働けますか。雇用の説明もしてほしい。	○新病院に統合する中電病院とは、新病院開院までの間、中電病院の安定的な事業運営を確保しつつ、医療スタッフの確保や人事交流等の面で連携していきます。
2	高齢者がよくかかる病気にならないよう、 どうしたら正しい知識を得ることができるのか、 また、普段の生活でどのような対策や心がけをすれば良いでしょうか？	○専門医の学会やこの県民公開セミナーのように公的な機関が発信する信頼できる情報や機会を捉えること、そしてその情報を取捨選択するリテラシーが大切です ○自分で健康状態を判断するのではなく、各病院の総合窓口やかかりつけ医への相談をすることが、正しい医療知識を得ることに繋がります。 ○普段の生活ではフレイルに陥らないよう、「栄養」「運動」「社会参加」の3本柱で健康寿命をできるだけ長く保って老後を過ごすことを心がけていただければと思います。
3	○病院機構が新たに発足して運営が始まるようですが、一般公募はありますか？ 県の職員のみで運営が始まるのでしょうか？ ○広島駅から新病院への患者の同線は確保してあるのでしょうか？ 立体歩道橋が繋がれば近未来的な姿になりそうですね！（天候にも左右されない歩道橋は理想です） ○医療機器の予算は大丈夫でしょうか？（現行の予算では足りないように思いますが、旧病院等の移設が多くなるとなると現場のスタッフが戸惑うかもしれません。建物の予算も同様です。特に医療機器の価格は6年後の予算内容が必要です。時代も変わって状況も最新医療となります。）	○看護師や医療技術職などについては、採用選考試験を実施していますので、詳しくは県ホームページ（ http://www.hph.pref.hiroshima.jp/saiyo/index.html ）をご確認ください。 ○法人の運営は、県立広島病院とJ R広島病院の職員全員が移管することを基本とし、上記採用試験に合格した採用予定者により病院の運営を行っていきます。 ○救急や感染対策を考慮して病院の出入口を複数箇所に設ける予定であり、患者様が御利用になる出入口によってアクセスルートも異なる可能性があります。強風・暴風雨などの悪天候により病院出入口が使用できなくなることはないよう、風よけ・雨よけ等対策を十分講じてまいります。 ○現在、医療機器に関する精査や病院整備の基本設計など、基本計画の具体化を図っているところであり、持続可能な病院経営が着実に進められるよう引き続き検討を進めます。
4	・県病院でお世話になっている患者・通院者はどうなるのでしょうか。 ・高度医療と人材育成を両立する病院とは広大附属病院のような病院のことなのでしょうか。	○広島都市圏における医療需要や、各医療機関が地域で担っている役割を踏まえ、新病院の整備を契機とする医療提供体制のあり方について引き続き検討を進めてまいります。 このため、新病院に急性期医療を集約し、救急医療において他の医療機関での対応が難しい患者を受け入れる「断らない救急」の実現や、複合的な疾患を抱える患者に最適な治療を行うため、かかりつけ医を含む各地域の医療機関と緊密に連携を図ります。 今後も、新病院の整備と並行して、新病院を含む基幹病院や地域の医療機関との適切な役割分担の下、患者の状態に応じた切れ目のない医療を提供できる体制の構築に取り組んでまいります。 ○広島大学病院は、引き続き、特定機能病院として、高度医療（高度救命救急、先進医療、難治性希少疾患の治療等）の提供や県内唯一の医育機関として医師を養成する機能を担うものと考えています。また、広島大学からは、本県医療の抱える課題を踏まえ、持続可能な医療提供体制を確保するため、本構想の実現に向けて協力していくとの意向が示されているところであり、基本計画策定過程においても引き続き緊密に連携し、構想の実現を図ってまいります。
5	全体の病床数が減るのは、入院できない人が増えるのか。	○「地域完結型医療」の一翼を担う新病院は、政策医療、高度医療、人材育成・循環機能を担うことを想定しており、新病院に急性期を集約する一方で、周辺の病院には急性期から回復期の医療や介護医療院等へ転換していただくことで患者の状態に応じた適切な病床を確保したいと考えています。
6	現在、JR病院に行っているが、今までのように気軽にいける環境になるのか。 JR病院を壊すのはもったいない。	○引き続き、JR病院とも連携を図りながら、地域の皆様がわかりやすい新病院となるよう、計画を進めて参ります。
7	待っている時間がどのくらいになるかわかるとか、フードコートの飲食店呼び出しのようなものがあると、イライラドキドキせず、待ち合い室にいる人が増えるのではないかと思います。ご検討ください。	○新病院では、患者呼び出しシステム（待合表示板、スマホ連動等）、A I問診、オンライン資格確認対応の再来受付機、自動精算機等の仕組みの導入など、診察や検査、会計の待ち時間の短縮などの利便性向上を図ることを検討しています。
8	病院数ヶ所が一体となるようですが、これまでその病院をかかりつけ医にしていた場合は、引き続きかかる(受診する)ことができますか？	○新病院構想では、地域のかかりつけ医を含め、個々の医療機関がそれぞれの得意分野を活かした医療機関同士の連携により患者を地域全体で治し、支える「地域完結型医療」を実現することで、医療資源の全体最適が図られ、患者の状態に応じた切れ目のない医療・介護体制が構築できると考えています。
9	看護師の募集は新卒だけでなく、経験者の募集もお考えですか？	○新病院は、令和7年4月に設立予定の地方独立行政法人によって運営することとしていますが、職員の体制や人員については現在検討中です。職員のライフステージやワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な勤務形態の導入等により、働きやすい環境の整備を図ります。
10	何度も質問していますが、どなたが責任者でしょうか。どなたが責任を持たれますか。	○執行機関の長として、県知事が最終的な意思決定を行いながら、この計画を組織をあげて全力で取り組んでいるところでございます。
11	統廃合され 新しくなって 今までのように診察待ち時間が更に長くなるのか？ 今までの医師に診ていただけるのか？ 救急対応は今までのようにしていただけるのでしょうか？ 今後の不安が大きいです	○回答No.12をご参考ください。
12	高齢者の救急対応はこれまでのようにしてもらえるのか。	○コロナ禍以降、高齢者の救急搬送が増えている中で、県内の病院で人手不足になっている現状を鑑み、下り搬送などの仕組みを活用して、機能分化・連携をし適切な搬送の促進をしていきたいと考えています。

13	地元医療機関との病院連携についてはどうか。	○急性期治療後の回復期リハビリテーション医療などを担う機能や、在宅・介護施設等において症状が急性増悪した患者に対応する機能の需要が広島都市圏において高まることが見込まれています。このような医療需要の変化に適切に対応できるよう、各医療機関の機能分化・連携のあり方について、引き続き各関係者と検討を進めていきます。
14	講演資料(当日の説明資料)の配布をお願いします。メモを取り切れないし、ポイントを覚えられない。	○当日のセミナー内容については、Youtubeにアップしていますので是非ご視聴ください。 https://youtu.be/r2FEIcXcOy4
15	新病院が向かっていく方向性や全体像を想像できる内容でした。学びになりました。	○今後も新病院構想について、引き続きホームページへの掲載や県議会への報告、公開セミナー等により県民への周知やコミュニケーションに努めていきたいと考えています。
16	(若手) 医師の確保について	○人材の確保については、新病院開院前から計画的な採用・交流や人材育成、必要な研修の仕組みづくりに取り組む。 ○また、新病院において新たに採用を見込む職種等は、開院前から計画的な採用・育成を検討するとともに、多様な勤務形態を取り入れ、職員にとって働きやすい環境を整備するなど、人材の確保に努める。
17	広島駅から病院への移動手段。例：動く歩道は作りますか？	広島県としてもJR広島駅に近いという利点を最大限活かしたいと考えております。JR広島駅からの動線については、新病院だけで実現できることではないので貴重なご意見として承り、検討項目の一つに加えたいと考えております。
18	今まで利用していた病院が駅北に集約されて不便を感じる方(交通など)にはどのように納得していただくのでしょうか。	○新病院へのアクセスを分かりやすく、かつ積極的に県ホームページなどで情報発信し、皆様へ周知してまいります。
19	どの診療科がどれくらいの割合になるのか。安芸などの病院との統合で現在の病院はなくなるのか。	○新病院の診療科目は、広島大学をはじめ地域の医療機関との役割分担及び連携体制を踏まえ、現在、再編対象病院（県立広島病院、JR広島病院、中電病院）の診療科を維持しつつ、新病院が備えるべき専門性に合わせた41の科目を基本に検討していきます。具体的診療科名は県の高度医療・人材育成拠点基本計画（R5.9策定）12ページをご覧ください。 ○2025年4月に地方独立行政法人を設立し、県立広島病院、県立安芸津病院、県立二葉の里病院（旧JR広島病院）を一体的に運営していくこととしていますが、この3病院及び新病院に統合予定の中電病院については、2030年の新病院開院まで、基本的には現在の場所で現在と同様の医療を提供する予定です。 ○2030年、新病院の開院に伴い、新病院に統合する県立広島病院、二葉の里病院（旧JR広島病院）、中電病院は、現在地での医療の提供を終了しますが、県立安芸津病院は、現在地において運営を継続する予定です。
20	今までの病院はどうなるのか。	○回答No.22をご参考ください。
21	新病院の全体組織、機能などまとめた冊子の作成を希望します。	○新病院に関する情報については、県ホームページにて公開していますのでご参考ください。 https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/koudoiryou-jinzai/
22	医療資源集中による、地方病院への影響。	○新病院構想においては、新病院の整備による医師確保・育成とともに、中山間地域へも医師を配置し、県内で医師が循環することで、県全体の医療提供体制の確保を図ることとしています。 ○現在、「各地域の拠点となる病院が中心となって、地域全体の必要医師数や課題を集約し、この情報に基づいて、大学や県などの人事権者で共有、調整を行う仕組み」の具体化に向けて検討を進めているところであり、引き続き、県全体の医療提供体制の確保に向け、各地域の関係者とも連携しながら、取組を進めてまいります。
23	今後の県立広島病院の在り方について。二次救急(現在の梶川病院のような)程度の機能は残すべきでは無いですか？	○県立広島病院の跡地活用の方向性の具体化につきましては、その時期や住民の皆様への周知方法も含めまして、現在検討中です。

(その他ご意見、ご感想、聞いてみたい医療テーマについて抜粋)

- ・入院受け入れ体制について！
- ・終末期医療についての構想がありましたら教えてください。現在元気に過ごしていますが、最後は痛みなく穏やかに逝きたいと思っています。
- ・足がつるに関するテーマ。
- ・駐車料金が高い。
- ・ピロリ菌についてのセミナーを開いてもらいたいです。尿全般に関して知りたいです。
- ・尿全般に関して知りたいです。
- ・眼の老化について。
- ・今後も興味あるテーマをご提供ください。2～3時間は長すぎます。
- ・糖尿病や腎臓病等身近な病気の予防法最新治療。
- ・小児医療(PICU...)感染症の対応セミナー(具体例含めて)。
- ・健康維持するためのトレーニング個人に合わせた強度のものスポーツジム(個人)でなく、公共で価格安価でできる所や提案。
- ・認知症の診断と治療、生活、介護に関することに興味がありました。
- ・発達障害について。今日伺った内容や自分自身や親のこれからの生活に活かしてできるだけ、健康寿命を伸ばせるように役立てたいと思います。人生会議についても、今からしっかり考えておくことが大切だと感じました。
- ・音声が高く聞きづらかった。講師はマイクを手持ちするなど司会者は気配りしてほしい。
- ・AIと認知症。
- ・治療法が革新的に進歩しています。そのような講演会をお願いします。
- ・歯科に関するいろいろ。口腔内のいろいろ。
- ・進行性疾患、難病に関するテーマの講演を聞きたい。本日の先生方の講演は、とてもわかりやすく大変勉強になった。
- ・安佐北病院のようにドクターヘリが欲しいです。福山、三原、呉、大竹の病院も搬送できるようにドクターヘリが欲しいです。

高度医療は保険適用されなく、多くの患者に適応できないのかと恐れ、身近に感じられませんか。

- ・これから必要な病院だと思います。
- ・高齢の私には新病院の建築は心強い。